



学校再開 季節は本格的な夏へ

6月1日(月)に学校が再開されてから1ヶ月。地区ごとの分散登校から始まり、15日(月)からの給食開始、そして29日(月)からの一斉登校開始というように、段階的に通常の学校生活へと戻ってきました。この1ヶ月は、3密を避けること、マスクを着けること、手洗いをしっかりすることといった「新しい生活様式」を学校に取り入れ、新型コロナウイルスへの感染リスクを減らしながら教育活動を進めることに取り組んできました。

教室は、窓を開けて常に換気をする、机の前後左右の間隔をあけるといった対応を、授業では、近い距離での話し合いを控えるなど、子どもたちが密接する場面を避ける対応を、給食では、手洗いの徹底と教職員による配膳、机を向かい合わせにせず会話を控えるなどの対応を取ってきました。



間をあけて座ります



指までしっかり洗います



水道では距離をあけます

学校が再開された当初は、新しい環境、新しい学級、新しい友達、そして新しい生活様式など、たくさんの新しいことに直面し、緊張した面持ちの子が多く見られました。徐々に慣れ、落ち着いて学校生活を送る子が増えてきました。

今週から一斉登校が始まりました。3ヶ月ぶりに子どもたちが揃い、学校に活気が戻る喜びを感じています。これからも感染症対策を講じながら学習を進めることとなりますが、子どもたちの心を含めた健康状態をしっかり把握し、夏休みまでの1か月が充実したものになるよう



ポタンティアガルフ
花の和

取り組んでいきます。保護者の皆様には、学校が再開されてからも様々なお願いに対し、ご理解・ご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。

6月の学習より

まず、1年生の生活「がっこうたんけん」。これから生活をしていく二宮小学校ってどんなところかな、どんな教室があるのかな、どんな人が働いているのかな、などについて知る学習です。

「がっこうたんけん」の当日、いくつかの班が職員室にもやってきました。部屋の広さや机の多さに驚く姿は毎年のことです。このとき、「二宮小学校に教室は全部でいくつありますか。」という質問を受けました。すぐに答えることができなかった



だったので「わかったらあとで教えてね。」と伝えたとこ、さっそく次の時間に「38だったよ。」と教えてくれました。長い休業を経て、ようやく1年生との関わりがもてたことを実感しました。

次に、5年生の総合的な学習の時間「お米を育てよう(仮)」です。これは、社会科「米づくりのさかんな地域」の発展としての学習で、自分たちで米を育てることで、その過程や大変さ、苦労について学ぶものです。

まずはじめに、牛乳パックの中で種もみを水に浸して芽出しをしました。

次に、黒土や赤玉土を使っての土づくりです。暑い中でしたが、5年生のみんなは手を泥だらけにして土をこね、種もみをまく準備をしました。



その後、芽出した種もみをまき、現在、順調に育ってきています。この後、米が実るまでにはまだまだ多くの作業があります。5年生のがんばりに期待しています。



